

7

特集 美しい口唇

ヒアルロン酸 +コンビネーション

佐藤英明

自由が丘クリニック 院長

口唇は顔面の美しさに大きな影響を与える部位の1つである。そのため、加齢による変化を生じやすい部位でもある。放射状のシワ、赤唇部の菲薄化、キューピッド・ボウの平坦化などに加え、口角の下垂やマリオネットラインも口唇の印象に大きく左右される。また、鼻や下顎とのバランスも重要である。ヒアルロン酸注入治療は有効だが、口唇周囲の改善には他の治療を組み合わせることで治療効果を上げることができる。

はじめに

口唇に関しては、以前は厚い口唇を治したいといった要望が多く、口唇縮小術が広く行われていた。時代の変化に伴い、口唇を増大する要望が増加してきた。これまで、真皮や脂肪を移植する方法も行われてきたが、口唇は三次元的な複雑な構造をしているため、細かい部分まで治療しないと本当の満足は得られない。一番適した治療はヒアルロン酸注入だと考えるが、他の治療を組み合わせることで効果も高くなる。

適応

上口唇

- ①人中の消失
- ②Cupid's bowの平坦化
- ③Vermillion borderの消失
- ④上赤唇部の volume loss
- ⑤上口唇の放射状のシワ

下口唇

- ①Vermillion borderの消失
- ②下口唇部の volume loss
- ③下口唇の放射状のシワ

口唇周囲

- ①上口唇と下口唇のバランス：上口唇が1～2mm突出しているのが理想
- ②鼻、下顎との関係：profileを整える
- ③ほうれい線、マリオネットラインの改善

鼻下長に関しては、Cupid's bowの立体化により短く見えることもあるが、手術も含めて検討すべきである。

患者への説明

インフォームド・コンセント(IC)

ヒアルロン酸注入により内出血を生じたり、一時的な腫れやしこりを触れたりすることがあることを説明する。また、発赤や皮膚の色調変化、疼痛やかゆみが持続する場合は、アレルギーや感染などの可能性があるため、早期に連絡または受診するように説明しておく。

治療前

リドカインを含んだ製剤を用いる場合は、事前にリドカインによるアレルギー既往の確認が必要である。治療対象部位の化粧を落としてから治療を行うため、必要であれば、自分の化粧品を持参するように説明する。

治療後

過度の飲酒、マッサージ、激しい運動などを避けるように説明する。

手技の実際：使用器具

治療前に準備しておくものとしては下記のようなものがある。

- 手鏡：患者と医師が鏡を用いることにより、双方とも正確に同じ治療部位について話し合うことができる。
- 記録用カメラ：施術前後に顔面全体5方向（正面、両斜位、両側面）の撮影は最低限必要である。さらに注入部位局所の撮影も行う。また、口唇に関しては表情を作ってもらい、その記録も残しておくといよい。口を尖らせる、笑う、下口唇を突き出すなどが必要である（図1）。患者は治療前の状態を忘れやすく「何も変化がない」と感じることもある。また、写真記録があると、トラブルを避けることができる（術後に不自然な表情になっていないかどうかなど）。
- 説明用紙、同意書：ヒアルロン酸注入に関して、説明用紙や同意書を作成し、日付と署名をもらうべきである。理想的には、適応が変わるたびに記入してもらうことが望ましい。
- いす、ベッド：通常のヒアルロン酸注入はすべて起座位で可能であるが、口唇は仰臥位での注入も必要となる。
- 外用の消毒薬（0.02%クロルヘキシジン溶液など）：無色でノンアルコールのものがよい。
- 局所麻酔剤（リドカイン塩酸塩注射薬、リドカインテープ、リドカインクリームなど）：局所麻酔剤を用いる場合は、あらかじめシワやたるみの程度、範囲などを把握しておかないと、腫脹のために判断が付きにくいこともある。また、広範囲の注入時には麻酔注射薬による神経ブロックが有効である。上口唇に対しては眼窩下神経ブロックを、下口唇に対してはおとがい神経ブロックを行う（図2）¹⁾。
- 注射針（27～32G）、カニューラ（25～27G）：鋭針を用